

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 5月 5日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520002

研究課題名（和文） 対話の垂直性 — ハイパー・ダイアログの包括的理解 —

研究課題名（英文） verticality of dialog — comprehensive understanding of the hyper-dialog —

研究代表者

戸島 貴代志（TOSHIMA KIYOSHI）

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90270256

研究成果の概要（和文）：本研究では、対話の高度な垂直性によって形成されるコミュニケーションの陰性形成を、「嘘」と「笑」および「化粧」の分析を中心に解明した。これにより、対話の「高度垂直性」に支えられる「ハイパー・ダイアログ」の圏域が、過度に哲学的思弁に走ることなく、また過度に科学的実証的でもない仕方で解明され、新たなコミュニケーション論の包括的な地平を見出す手掛かりを得た。

研究成果の概要（英文）：In this research, negative formation of the communication formed of the advanced vertical and perpendicular nature of a dialog was solved by focusing on a "lie", a "smile", and focusing on analysis of "makeup." Thereby, without running to philosophical speculation too much, a sphere of the "hyper-dialog" supported to "the advanced vertical ones" of a dialog was solved by the method which is not too scientifically positive, either, and acquired the key which finds out the comprehensive ground level of a new communication theory.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・哲学・倫理学

キーワード：垂直性、嘘、事象性、現象学、笑い、超越

1. 研究開始当初の背景

（1）通常の二者間での対話では、対話を可能にする先行的枠組みや表に現れない情報（陰性情報）が、暗々裏に対話の方向、範囲、内容を制約していることが多い（例「本音と建前」「暗黙知」「場の空気」等）。これについては従来、哲学、心理学の双方において比較的豊富な分析例や解釈例がある。本研究は

こうした研究状況を背景にして、より学際的な対話研究を試みた。すなわち、過度に哲学的な思弁に走らず、しかし単なる科学的・実証的レベルに終始するのでもない、両者の穏当なバランスに則った議論を、対話の垂直性ということに関して実行すること、これが本研究の出発点における基本姿勢である。

(2) とくに実証的側面に関しては、あくまでも科学の立場を貫く認知科学や心理学では、垂直性という、表に現れない形而上学的要素に対して、実験や調査を通じた接近にとどまり、垂直性そのものの純粋な可能性をえぐり取る仕方での理論的主題化がされることはほとんどなかった。この方向での哲学的寄与がなされれば、心理学、哲学双方にとって大いなる意義を持つ研究地平が開かれると推察される。

2. 研究の目的

(1) 現実のコミュニケーションを超越した次元がむしろそのコミュニケーションの中に息づいていることを、かえって心理学実験等の実証的な具体例に見出すこと。また、心理学的成果の哲学への割戻し、哲学的成果の心理学への応用を図る。

(2) (1) により、勝れて形而上的存在が日々の会話や日常的所作において実際に機能していることを確認し、それを基に純粋哲学的な「対話」研究へのフィードバックを図り、哲学の対話研究にあらたな地平を開くことを試みる。

3. 研究の方法

(1) 全体を「哲学ポスト」と「心理学ポスト」と「交易ポスト」に分ける。「ポスト」と名付けるのは、本研究の目的が、上記における前二者つまり哲学と心理学の「支柱」(post) 間における「交易」(post)にあることを重視することによる。各ポストでの成果を、各ポスト間での共有財として、相互の生産的批判を試みる。

(2) 哲学ポストから提示された「高度垂直性」概念による、心理学ポストにおける実験のための「状況選定」や「シナリオ作成」への影響、および、そのフィードバックとしての心理学ポストから哲学ポストへの提言を試みる。特に、対話の垂直性に関し、心理学的・科学的な研究ではそれとしては概念化されにくいものについて、哲学的概念形成がどれくらい有効であるかをそのつど意識した交易をはかる。

4. 研究成果

(1) 水平次元における対話、すなわち相手と向き合う通常の対話を、単に上下から垂直に支える先行的枠組みは、あるときは話者を地理的・文化的・社会的・歴史的に制約する「風土」(和辻)として、またあるときは特

定の研究者集団を制約する「パラダイム」(クーン)として、さらにはより広範な話者集団の「おいてある場所」(西田)として、実際の様々な場面で重層・輻輳的に見出され得た。しかしながら本研究では、これにとどまらず、心理学的科学的次元でも目に見えぬ垂直性がつねに問題となりえることを確認できた。さらには、これにより、哲学的概念形成のある種の応用の可能性も達成できた。

(2) ハイデガーやレヴィナスの思想に語られている〈高度垂直性の次元における対話〉の中には、こうした従来の「先行的枠組み」には納まらないものが潜んでいることが確認された。哲学的な対話研究のあらたな地平を開拓できた。また、哲学史の研究に関しても、従来とは違ったまなざしで臨める可能性を得られた。

(3) 上述の先行的枠組みとしての超越論的次元をも、なお水平的存在として見出し得るより上位の高度垂直的位相にむしろ牽引され後押しされる対話すなわち「ハイパー・ダイアログ」が、心理学における実験的手法 — 「集合法」や「個別配布・個別回収形式による質問紙調査」を用いた確率論的手法や統計学的手法 — における「状況選定」や「シナリオ作成」にも寄与することが確認できた。これにより、心理学の通常の実験手法における、今回のハイパー・ダイアログの研究の有効性が確認できた。

(4) 哲学的議論における垂直性理解へのフィードバックとして、世界内存在たる人間を「対話内存在」として捉える新たな「対話現象学」の地平が得られた。ハイデガー研究、レヴィナス研究はもちろん、世界内存在の概念がこうして拡大されることを通じて、ハイデガー以降の現象学の研究に対するあらたなフィールドを開くことができた。

(5) ハイパー・ダイアログが一般的対話場面でどのように実際上の機能を果たしているかを特定することを、心理学における「状況設定」や「シナリオ形成」の場面における隠れた有効性を抉り出すことによって、結果として、従来のコミュニケーション論では不可通約的とされた異種対話間にも新たに別の通約性が見いだされた。すなわち、ハイパー・ダイアログの問題圏におけるコミュニケーション問題として、従来の問いにはなかった立問が可能となった。

(6)「死者との対話」や「神との対話」についても、その意味に関して思索するための、これまででない哲学的・心理学的な「対話現象学」という立脚点の今後の獲得が期待できた。すなわち、宗教的次元と哲学的次元との相互の交易的対話として、「神」の問題や「死後」の問題といった超越的存在の問題構成について、宗教にも哲学にも偏らない研究方途が見出せた。

(7)すぐれて実践的な場面(心理学実験も含む)にすでに織り込まれている見えない成分(すなわち陰性要素)を取り出すことで、かえってその実践的場面がより広範な実践性へと開かれうることを示せたことで、「コミュニケーション論」や「応用倫理学」に対してもこれまででない地平が得られた。すなわち、日常におけるハイパー・ダイアローグの要素をとりだすことで、日常会話における学的次元への貢献の可能性が

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

1. 阿部恒之・高野ルリ子、化粧と感情の心理学的研究概観、におい・かおり環境学会誌、査読有、42巻、2011年、338-343、
2. 阿部恒之、化粧心理学のご紹介、コスメチックレポート(日本化粧品工業連合)、査読無、200巻、2011年、8-9
3. 戸島貴代志、己の而今、今を生きる(東北大学出版会)、査読無、1巻、2011年、137-156
4. 戸島貴代志、死への産声、死と生への問い(人文社会学講演シリーズ)、査読無、V巻、2011年、179-215
5. 戸島貴代志、さらばもう一度-『渡邊二郎著作集』-、『週刊読書人』、査読無、2011年、4-5
6. 横地徳広、道徳的人格性と物在性の交差-ハイデガーの役割存在論を求めて-、雑誌『モラリア』、査読無、17巻、2010年、61-81
7. 戸島貴代志、生命の上流、雑誌『哲学』、査読有、60巻、2009年、83-99
8. 戸島貴代志、オネステイヤーバルクソン

と世阿弥-、雑誌『モラリア』、査読無、16巻、2009年、26-66

[学会発表] (計3件)

1. 戸島貴代志、或る死の記録-沈黙の記述-、シンポジウム「柳田國男と東北大学」、2011年11月20日、東北大学
2. 横地徳広、生存の場所と応答可能性-レヴィナスの場合-、日本倫理学会、2009年10月16日
3. Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T., The double-edged sword of humor: Humor perception as a key of tolerance for mistakes, International Society for Research on Emotion 2009 Conference, 2009年8月8日、ベルギー、University of Leuven

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
<http://www.sal.tohoku.ac.jp/philosophy/teacher/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸島 貴代志 (TOSHIMA KIYOSHI)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90270256

(2) 研究分担者

阿部 恒之 (ABE TSUNEYUKI)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60419223

横地 徳広 (YOKOCHI NORIHIRO)
弘前大学・人文学部・講師
研究者番号：00455768

(3) 連携研究者
()

研究者番号：